



ぴっくあっぷブックー覧



年度	放送月	書名	著者	出版社	出版年	内容	請求記号
平成26年度	4月	<u>かみひこうきとんだ</u>	米倉 健史 絵と文	至光社	1997	本の中は作者の作る布絵本の不思議な空間。飛行機で旅することが、まだ特別なことだった時代、空に残る飛行機雲に心躍らせた頃が思い出されます。	Z913.8
	こどもの読書週間 「いつもいっしょ、本といっしょ。」から	<u>一冊の本をあなたに</u>	歌代幸子／著	現代企画室	2013.3	副題は「3.11絵本プロジェクトいわての物語」です。どんな境遇にあっても、1冊の本が夢や希望を与えてくれるということを伝えたい。	369.31
	6月	<u>お菓子の本の旅</u>	小手鞠るい／著	講談社	2012.4	旅をするのは「人」ばかりではありません。「本」も「思い」も旅をするのです。	Z913.8
	旅に出ましようか (山形デスティネーション キャンペーン関連展示 にあわせて)	<u>みずいろのそう</u>	Nakaban ／作	ほるぷ出版	2011.8	野原に一人ぼっちで暮らしていたみずいろのそうがある日たびにです。歩き始めることそれが「たび」。	Z913.8
	9月	<u>加齢なる日々 定年おじさんの放課後</u>	小川 有里／著	毎日新聞社	2013.9	定年から年が経ち、見えてきた老いの模様と老妻の本音。あなたはどこまで相槌をうてますか。	367.3
	敬老の日おすすめの 本	<u>ソボちゃん</u>	有吉玉青／著	平凡社	2014.5	孫が敬愛の念で呼ぶ「ソボちゃん」は、明治生まれの折り目正しく。凛とした女性でした。大事な時間を共有している幸せが心にしみみます。	914.6
	10月	<u>どーしたどーした</u>	天童荒太／文 荒井良二／絵	集英社	2014.1	一番必要な時にかけられた、おまじないのような言葉「どーした」。これを読んだあなたはどんな思いをもたれたのか、そっと聞いてみたいのです。	YZ913.8
	県内出版物展から	<u>僕が旅した日本の田舎</u>	中道達也／著	中道達也	2013.10	山形県西川町。この町に住む人々が、自分の暮らすこの場所を心から楽しんで生きていることを御存知でしたか。	YK262.4
	11月	<u>代表作時代小説 平成26年度</u>	日本文藝家協会 ／編	光文社	2014.6	撰者が選んだ17編はどこから読んでも面白い。日本人の心のふるさとにつながるものが、時代小説の中に読めるからでしょうか。	913.68
	江戸の町を歩いて みませんか(私の好きな時代の中 で)	<u>江戸のお店屋さん</u>	藤川智子／作	ほるぷ出版	2013.11	江戸のお店屋さん、さあ覗いてみましょうか。おやおやこんなところに昔の町並みがとか、あなたの周りにも江戸のにおいが残っていませんか。	Z672.1
	1月	<u>大震災ボランティア</u>	戸高真弓美/ 編著	朝日新聞社	1995.3	阪神淡路大震災の日から20年が経ちました。のちにボランティア元年と呼ばれた多くの献身的な人々の働きを、私たちは忘れることができません。いま、自分にできることをもう一度考えてみませんか	369.31
	思う心・忘れない 心(震災から20 年が過ぎて)	<u>賢者のおくりもの</u>	オ・ハリ／原作 いもとようこ ／絵	金の星社	2014.11	この夫婦のように心をわかりあえる相手とさえ、すれ違ってしまふ贈り物。ましてや他人との間では、伝わらないことの方が多いかもしれません。相手を想う深い心とはどんなものか、考えさせられます。	Z933.7
		<u>福島、風と木の3年</u>	丹治博志 [ほか] ／著	風と木	2014.12	ご寄贈いただいた本です。3.11のあの日からもう4年です。「お元気ですか？」の言葉があなたと東北を支えます。	Y369.31
	2月	<u>そうか、もう君はい ないのか</u>	城山三郎／著	新潮社	2008.1	最愛の伴侶に先立たれ、思わずつぶやいたこの言葉に、著者の万感の思いがこもっています。これから先、この言葉を言ってもらえる、そして自分が呟いてしまうそんな人が見つければ幸せな一生ですね。	914.6
	春待つあなたに贈 る本	<u>花野に眠る ～秋葉図書館の四季</u>	森谷明子／著	東京創元 社	2014.11	H22にご紹介した「れんげ野原のまんなかで」の続きの物語です。どこかで静かに過ごしたいと考えた時、それが図書館であってくれたら嬉しいです。長い間の本のご紹介もこれが最後です。ありがとう	913.6